



# 鶏卵

## ◆飼養動向

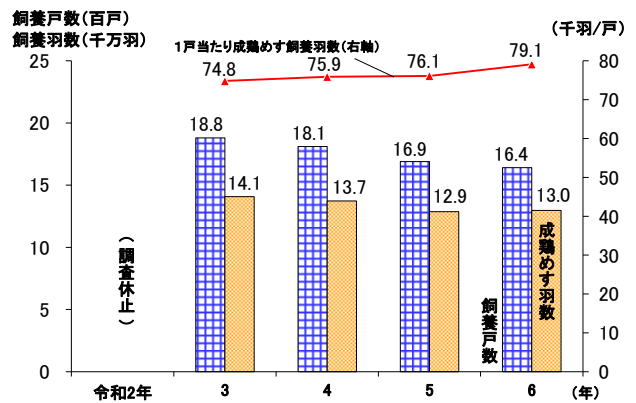
### 6年2月現在の成鶏めす飼養羽数、前年比0.9%増

採卵鶏の飼養戸数は、小規模飼養者層を中心に減少傾向で推移している。令和6年は、1640戸（前年比3.0%減）と前年をやや下回った（図1）。

成鶏めす（6カ月齢以上）の飼養羽数は、3年以降、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）発生の影響により減少傾向で推移していたが、6年は1億2973万羽（同0.9%増）と前年をわずかに上回った。この結果、1戸当たりの平均成鶏めす飼養羽数は、7万9100羽（同3.9%増）と前年をやや上回った。なお、種鶏を除く採卵鶏の飼養羽数は1億6860万羽（同0.7%減）と前年をわずかに下回った。

また、成鶏めすの飼養戸数および飼養羽数を規模別に見ると、10万羽以上を飼養する層は、飼養戸数全体の約20%、飼養羽数全体の約80%をそれぞれ占めており、いずれも増加傾向となっている。

図1 採卵鶏の飼養戸数および成鶏めす羽数の推移



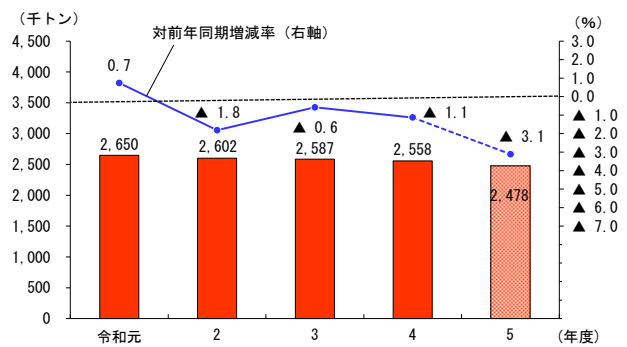
資料：農林水産省「畜産統計」  
 注1：各年2月1日現在。  
 注2：成鶏めすとは、種鶏を除く6カ月齢以上のめすをいう。  
 注3：飼養戸数は、種鶏のみの飼養者を除く。  
 注4：令和2年は農林業センサス実施年のため、調査休止。

## ◆生産

### 5年度の生産量、前年度比3.1%減

鶏卵生産量は、平成27年度以降、家庭用、業務・加工用ともに需要が旺盛であったことなどから、前年度を上回って推移し、令和元年度には264万9875トン（前年度比0.7%増）と過去最高となった（図2）。しかし、2年度以降は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により価格が低下したことや、HPAIの記録的な発生の影響により、それぞれ前年度を下回って推移しており、5年度（概算）は247万8000トン（同3.1%減）と前年度をやや下回った。

図2 鶏卵生産量の推移



資料：農林水産省「鶏卵流通統計」、「食料需給表（概算）」

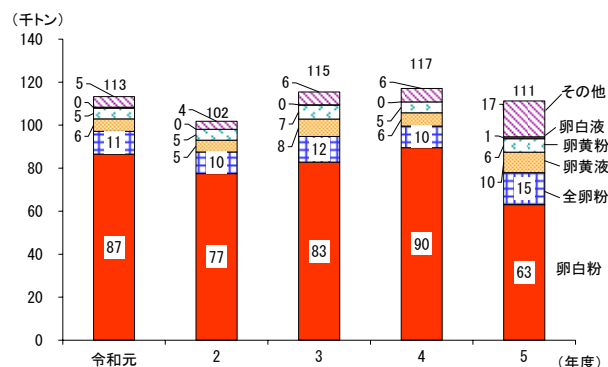
## ◆ 輸入

### 5年度の輸入量、前年度比4.9%減

鶏卵（ふ化用除く）の輸入量（殻付き換算）は、国内消費量の4%程度で推移している。輸入量のうち約9割は加工原料用の粉卵が占めており、主にオランダ、イタリアおよび米国から輸入している。また、粉卵の輸入量のうち約5割は卵白粉となっている（図3）。

令和2年度はCOVID-19の影響による需要の減少などにより前年度を下回った一方、3年度以降は日本国内でのHPAI発生の影響による加工用国産鶏卵の代替需要などから増加傾向で推移していたものの、5年度は、HPAIの影響による輸入価格の高騰などにより、11万1264トン（前年度比4.9%減）と前年度をやや下回った。

図3 鶏卵輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
注1：殻付き換算ベース。  
注2：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

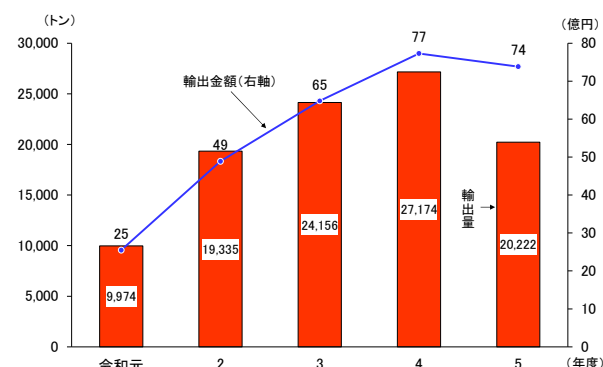
## ◆ 輸出

### 5年度の輸出量、前年度比25.6%減

近年、鶏卵（殻付き卵）の輸出量は、高い衛生管理による品質や安心感が評価され、増加傾向で推移したものの、令和5年度は、HPAI発生による輸出停止や国内需給のひっ迫、輸出先での需要の低下などから2万222トン（前年度比25.6%減）と大幅に、同輸出額も73億8476万円（同4.5%減）とやや、いずれも前年度を下回った（図4）。

輸出先については、香港向けの同輸出品が1万9922トンと全輸出品の99%、同輸出額が72億1650万円と全輸出額の98%を占めており、その他、シンガポール、台湾、グアムとなっている。

図4 鶏卵の輸出量および輸出金額の推移



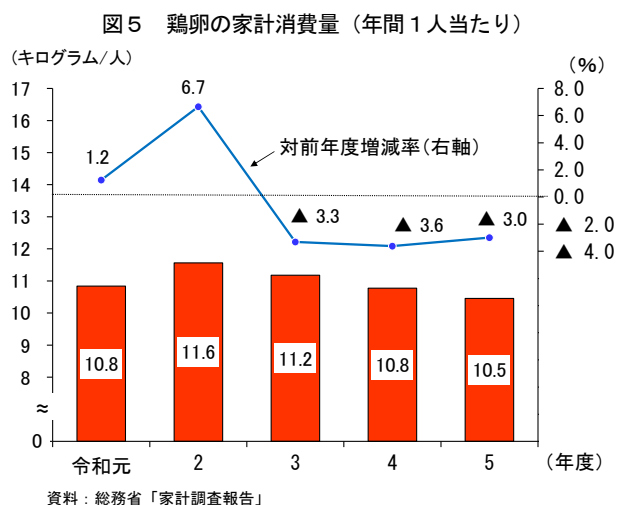
資料：財務省「貿易統計」  
注：殻付き卵（食用）。

## ◆消費

### 5年度の1人当たり家計消費量、前年度比3.0%減

鶏卵の家計消費量は、量販店などで販売されるテーブルエッグに加え、近年、食の簡便化に対応してコンビニエンスストアなどで販売されている卵加工品の需要の高まりを受け、概ね安定的に推移している。

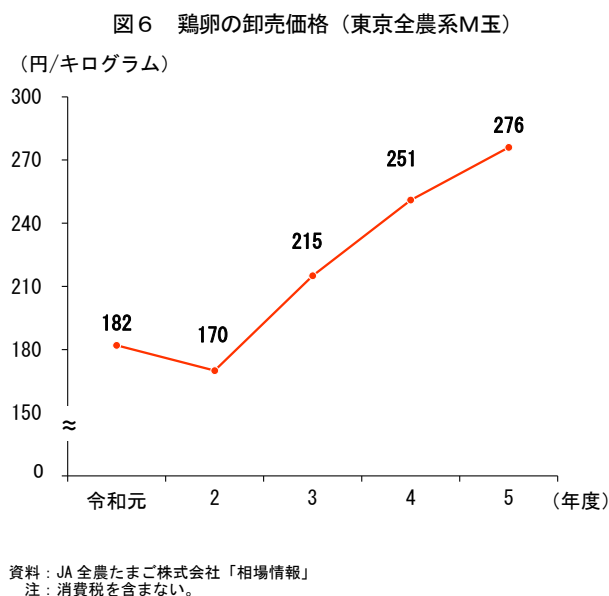
年間1人当たりの家計消費量は、令和2年度はCOVID-19の影響による巣ごもり需要を受けて大幅に増加したものの、3年度以降はHPAI発生の影響などにより減少傾向にあり、5年度は10.5キログラム（前年度比3.0%減）と前年度をやや下回った（図5）。



## ◆卸売価格

### 5年度の卸売価格、前年度比10.0%高

鶏卵の卸売価格は、COVID-19の影響による業務用需要の減少から令和2年度に下落したが、3年度以降は、HPAI発生に伴う供給の減少のほか、業務用需要が回復傾向にあることや生産コストの上昇などからそれぞれ前年度を上回り、5年度は1キログラム当たり276円（前年度比10.0%高）と前年度をかなりの程度上回った（図6）。



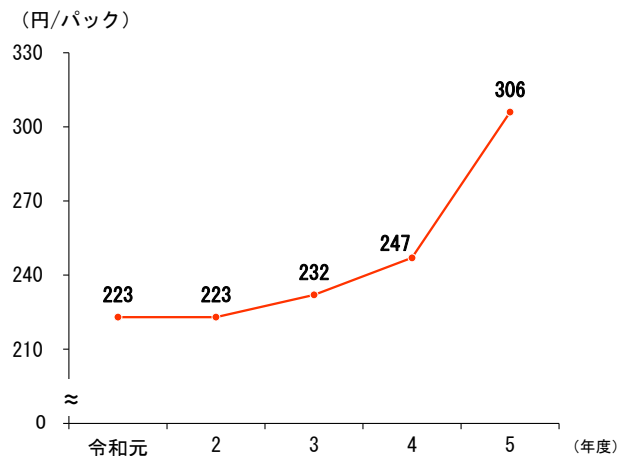
## ◆小売価格

## 5年度の小売価格、前年度比23.9%高

国内の鶏卵消費量のほとんどが国内生産で賄われていることから、鶏卵小売価格は卸売価格の変動に影響を受ける傾向がある。

鶏卵小売価格（東京都区部）は、令和5年度の鶏卵の卸売価格（東京全農系M玉）が前年度に続きHPAI発生の影響を受けて上昇したことなどから、1パック当たり306円（前年度比23.9%高）と前年度を大幅に上回った（図7）。

図7 鶏卵の小売価格（東京都区部）



資料：総務省「小売物価統計調査」

注1：消費税を含む。

注2：価格は、サイズ混合（卵重「MS52g～LL76g未満」、「MS52g～L70g未満」または「M58g～L70g未満」）。